

[演題12]

子供を対象とした蚊の採集と観察に関する実習の実践

○山内健生（兵庫県立大学／兵庫県立人と自然の博物館）・高見咲恵・廣田編子・高瀬優子・田丸真奈維
（三田市有馬富士自然学習センター）

蚊は吸血に関する特殊な生態と形態を備えた昆虫である。しかも、蚊は我々の身近な環境に普通に生息しており、容易に採集することができる。こうした点から、蚊は生物学の教材として適した昆虫だといえる。しかし、蚊を材料とした子供向けの教育普及活動の実践例は少なく、少数が知られるのみであった。

我々は、2016年7月9日に、三田市有馬富士自然学習センターにおいて、夏休みの自由研究を念頭に置き、子供を対象とした実習「カをしらべよう」を開催した。受講者は、有馬富士公園内の野外にて、人オトリ法（Fig. 1）を用いて蚊の成虫を採集すると共に、スポイトを用いてボウフラ（蚊の幼虫）を採集した（Fig. 2）。その後、室内へ入り、採集した蚊の形態を顕微鏡で観察した。

受講生が書いた感想文から判断して、本実習の内容は子供にとっても興味深いものであったといえる。こうした実習内容は、さまざまな地域でも受け入れられ、有益であると予想される。しかし、我が国では蚊の専門家が少ないため、今後は、蚊を用いた実習メニューの開発を進めるとともに、一般指導者向けのマニュアルの作成が必要であると考えられる。



Fig. 1 人オトリ法による成虫の採集

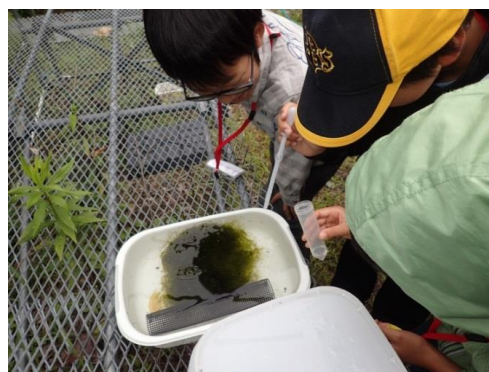


Fig. 2 幼虫採集